換先として飼料用米が前年より13・2ヘクタール増えています。

次に、米の集荷状況についてですが、10月31日現在で、7，775俵の集荷量となっています。農家からの予約申し込み数量は、8，099俵でありましたので出荷率は96・0％となりました。

また、当町の1等米比率は10月31日現在で95・4％であります。

なお、鹿角市は95・4％で、東北農政局発表の秋田県産水稲うるち玄米1等米比率は、9月末現在で92・6％となっています。

▼地域商品券事業・宿泊助成券事業の使用状況

小坂町地域商品券事業は、コロナ禍における原油価格・物価高騰対策として、地域経済の回復支援と個人消費の拡大を促進させるため、2，304世帯に、町内各事業所で使用できる千円の地域商品券15枚、1万5千円分を送付しました。

10月末が使用期限となっていました商品券の利用状況は、千円券の送付枚数3万4，560枚中、3万3，930枚が使用され、利用率は98・2％となっています。

次に、宿泊支援助成券については、使用期限が11月30日となることから最終実績のとりまとめは12月中になりますので、現段階でのご報告をさせていただきます。

助成券は、秋田県民を対象に1人最大2枚まで応募できるものとし、五千円券6，000枚を抽選により交付しています。

抽選の状況は、11，608通の応募があり、当選者3，000人を決定しています。

10月末現在の助成券の利用状況は、十和田湖地区で3，819枚、中央地区で200枚、計4，019枚が利用され、利用率は67％となっています。

昨年度と比べて、宿泊支援助成券の利用は下がっていますが、地域応援商品券とともにある程度の利用がなされていることから、一定の経済効果が図られたものと思います。

教育行政報告要旨

▼まなびピア2022の開催

10月8、9日の2日間にわたって開催され、今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら通常開催としました。作品・活動展示には、一般町民・団体の作品のほか、町内保育所や小坂中学校の作品などから出展がありました。

その他に「太極拳」の発表、和井内貞行の一代記「われ幻の魚を見たり」の上映、体験講座などが催され、どれも大変好評でした。来場者は昨年度を大きく上回る約580人の方が足を運んでくれました。

また、8日は小学校体育館で学習発表会、9日はセパームアリーナで坂中祭と合唱コンクールが同時開催され、まなびピアにもたくさんの保護者の方が訪れました。

両校のステージ発表では、ふるさと小坂についての発表や、合唱、劇、ダンスなど、小中一貫教育校としてのふるさとキャリア教育の成果が見られ、観客から多くの拍手が送られていました。

▼秋田25市町村対抗駅伝・ふるさとあきたラン

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で3年ぶりの開催となりました「ふるさとあきたラン」が、仙北市内を回る9区間33キロの特設コースで行われ、25市町村のうち22チームが出場しました。小坂町チームは、選手選考に難航しましたが、なんとかメンバーをそろえることができました。小学生、中学生、高校生、一般とみんなが懸命にたすきをつなぎ、「町の部」で5位、総合で17位という結果でした。

遠方にもかかわらずかけつけた町民や選手の家族、また観光シーズンということもあり大勢の観光客の声援が選手達の走りを後押ししてくれました。

10回目となる来年は、由利本荘市で開催される予定です。早めに準備をし、入賞を目指してがんばりたいと考えています。

▼全国学校給食甲子園

この大会は全国の学校給食で提供されている献立を競う大会です。食育を啓発しながら地産地消を奨励し、地域の活性化につなげることを目的にしています。また大会が食育推進に役立つとともに、成長過程にある児童生徒の健全な食生活と健康を考えながら、学校給食の重要な役割を知っていただく機会となっています。

今年度開催されている第17回大会で、全国から1，249件の応募があった中から、小坂小学校の加藤栄養教諭が第4次審査を勝ち抜き、北海道・東北ブロック代表として、12月11日、東京都を会場に開催される、7人による決勝大会へ進出しました。

献立は桃豚、アスパラ、アカシアの花など地元食材を巧みに活用しており、子どもたちが摘んだ花を使用したり、さらに町の産業も学べる給食であると評価をいただいています。

決勝へ進出したことで、学校給食にかかわる学校栄養教諭、調理員のみならず、食材生産者や保護者の励みとなり、自信につながるものと確信しております。

今後とも、児童生徒の健全な食生活を考慮しながら、地場産物を活かし、ふるさとを愛する心を育てる学校給食の充実に努めます。

▼康楽館演劇祭

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、3年ぶり6回目となった「康楽館演劇祭」は、大館市民劇場、アート企画陽だまり、秋田県立能代高等学校演劇部、黒子座きっず、小坂相撲甚句会に出演いただきました。

この演劇祭は「北の演劇祭」と「演劇フェスティバル」を引き継いだもので、小坂町の貴重な近代化遺産であり国指定重要文化財「康楽館」の舞台で幅広い人材の交流を図るとともに、多様な舞台創造の拠点として発信することを目的に開催しているものです。

「黒子座きっず」は、宮沢賢治の「雪渡り」に挑戦しました。町内小・中学校から17人が応募し、10月中旬からわらび座の先生から指導を受け、一生懸命練習をしてきました。元気あふれる舞台は、観客の皆さんにも喜んでいただけたものと思っています。

「小坂相撲甚句会」は、本物の相撲装束で登場し、小坂町を題材とした甚句も披露し、会場は大いに盛り上がりました。

「大館市民劇場」は、なまはげにまつわる物語を、「アート企画陽だまり」の高坂さんはチェルノブイリを題材にした語り芝居を、「秋田県立能代高等学校演劇部」は1年生4人の部員ですが、不思議な世界の物語を表現しました。

今回の演劇祭は、新型コロナウイルス感染症予防の協力をいただきながらの開催でしたが、300人の方に来場いただきました。多様な作品が多く、来場者には、飽きることなく楽しんでいただけたものと思っています。